第 1 章

公　開　実　験　授　業

―― 1 年間のデータ ――

1　授業内容

1．1　授業ガイダンス

全学共通科目Ａ群「ライフサイクルと教育」

授業ガイダンス

2002年４月15日

1．この授業について

1）この授業の特徴

この授業は、高等教育教授システム開発センターの提供する、実験的性格を持つ授業です。複数の講師が、「ライフサイクルと教育」という共通のテーマについて、リレー式で各自３回〜４回の授業を担当します。

授業内容は、単独の講師が提供するのをはるかに超えた多様性を持つこととなります。構造化された知識を、単に受動的に受け取ったり暗記したりするのとは違い、多様性の中から積極的に自分なりの何かを見つけ出し、自分の問題として考えていく、主体的受講態度が望まれます。

2）相互につくりあげる授業

この授業では、教授陣がただ一方的に知識を伝授したり、授業のやり方を決めたりするものではありません。授業に参加するみなさん方にも、授業の在り方を模索し、授業をより良いものにしていくよう、提言していってください。すなわち、みなさんたち学生にも授業を作り上げる責任があるのです。

授業では、授業の感想・意見・要望などを自由に書き込む「何でも帳」と呼ばれる帳面が、ひとりひとりにあてがわれます。みなさんたちは、毎回の授業の最後に、授業で感じたこと考えたこと等を、そこに書いていきます。教授陣は、何らかの形でそれに応答していきます。このように、この授業では、学生と教授陣との相互の応答関係が生まれるよう意図されています。

学生と教授陣の両者で作り上げていく授業ですので、実際にどのように展開して行くか未知数の部分があります。授業の年間計画は、既に概要が決めてありますが、これは固定的なものでなく、授業の流れによって、改善の可能性に開かれています。

3）実験としての授業

この授業は、大学の授業のあり方を模索する、ひとつの実験の場です。したがって、みなさん方には授業に関するアンケートや調査をお願いすることがあります。

また、授業の様子は、授業者の様子と学生の様子を含め数台のビデオカメラに記録され、教室後列には参観者が控えています。このような授業の記録は、授業研究や大学教員の研修のためのデータとして使用されます。学生のみなさんは、そのことを了承しておいてください。ただし、データは、みなさん方の個人情報を公開するような形での扱い方はなされません。

4）大学教員の研修としての授業

毎回の授業の終了後には、隣室で、授業の担当者と観察者が、授業検討会を開きます。ここでは、その日の授業を題材として、ディスカッションがなされます。これは、教授陣相互が自分たちとの教育の在り方を改善したり、より良い教材を作っていくことにつながります。

後ろに控えている観察者の何人かは、今年度の授業を担当します。他の観察者も、これまでこの授業を何度か担当してきました。このように、互いの授業を見たり見てもらったりして、教授陣自身が学び合うことを目指しています。

この授業をもとにした研究成果は、数多くの報告書や出版物によって公表されています。

※参考　この授業に関する出版物

【一般の書店で入手できるもの】

・京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして ── 京都大学公開実験授業の一年間』玉川大学出版部　平成９年９月

・京都大学高等教育教授システム開発センター編『大学授業のフィールドワーク ── 京都大学公開実験授業』玉川大学出版部　平成13年３月

・京都大学高等教育教授システム開発センター編『大学授業研究の構想 ── 過去から未来へ』東信堂　平成14年３月

【附属図書館および各学部図書館で閲覧できるもの】

・『京都大学高等教育研究』第１号～第７号

・『京都大学高等教育叢書』第３、４、６、８、10、13の各号

２．授業担当者紹介（担当予定順）

大山泰宏（おおやまやすひろ）　京都大学高等教育教授システム開発センター・助教授
臨床心理学　大学教育評価研究

田中毎実（たなかつねみ）　京都大学高等教育教授システム開発センター・教授
教育哲学　人間形成論　大学教授法研究

松下佳代（まつしたかよ）　京都大学高等、教育教授システム開発センター・助教授
教育方法学　大学教授法研究

井下　理（いのしたおさむ）　慶応大学総合政策学部・教授　　京都大学・非常勤講師
社会心理学　コミュニケーション論

矢野裕俊（やのひろとし）　大阪市立大学文学部・教授　　京都大学・非常勤講師
教育史

清水豊子（しみずとよこ）　千葉大学教育学部・教授　　京都大学・非常勤講師
イギリス演劇、ドラマ教育

３．授業の評価

１）評価の方法

【評価の対象】

毎回の「何でも帳」の記述、学期末（セメスター末）に課すレポート等によって、総合的に判断します。

【評価方法】

授業担当者が合議して決定します。

2）評価に関する注意

この授業に関して、「授業に出席してレポートを書けばＡが保証される」といった、誤った情報が流れています。この授業は、決して「楽勝科目」などではありません。漫然と出席して単に単位を稼ごうとする授業態度では、不可になることもあります。

4．受講に関するその他の注意

1）前期・後期の両方の受講を推奨

- セメスター制のため、前期『ライフサイクルと教育Ａ』と後期『ライフサイクルと教育Ｂ』がありますが、一年を通じて両方を受講することを推奨します。受講するかどうかの決定に関しては、そのことも考慮しておいてください。
- 後期『ライフサイクルと教育Ｂ』は、前期『ライフサイクルと教育Ａ』で単位を取得していなければ、受講できません。

1．2　2002年度 年間授業計画（案）

前　期

授業担当	授業日	授　業　内　容
大山　泰宏	4月15日	**オリエンテーション**
田中　毎実	4月22日	（注）
	5月13日	
	5月20日	
	5月27日	
松下　佳代 学び―これまでとこれから	6月3日	**大学生の「学力低下」** 京大生のデータなどをもとに「大学生の学力低下」が言われている。あなたは、自分たちが「学力低下」していると言われることについてどう考えるか。また、あなた自身は大学生の学力が低下していると思うか？　その根拠は？
	6月10日	**君の学力は「受験学力」？** 「君の学力は受験学力だ。真の学力ではない」と言われたら納得するか？反論するとすれば、どう反論するか？
	6月17日	**学習の歴史的・社会的規定性** 学習の結果身についた力が学力だとすれば、そもそも私たちはどんなふうに学習してきたのだろう？　その学習は歴史的・社会的にどう規定されているだろうか？
	6月24日	**学習の再定義** 知識や技能を習得することだけが学習ではない。学校や塾・予備校だけが学習の場ではない。学校の外で、あるいは私たちとは異なる文化の中で、人びとはどんなふうに学んできた（学んでいる）のだろうか？　これからあなたはどんなふうに学んでいくか？
井下　　理 欲求と自己	7月1日	**欲求と自己（1）** 「自分が今、したいこと」をリストアップしてもらい、その後、欲求分析ドリルを行う。
	7月8日	**欲求と自己（2）** ＶＴＲ（11分）を討議素材としていっせいに鑑賞した後、グループに分かれて討議する。
	7月15日	**欲求と自己（3）** 1、2回の進行状況に合わせて、3回なりのひとつのまとまりとなるよう、討議と解説を行う。

（注）田中担当分は空欄であるが、これは受講生の受講届けの文章や「何でも帳」などをみてそのつどに決定することを受講生に伝えていた。実際に行われた授業内容については当該欄を参照されたい。

後　期

授業担当	授業日	授　業　内　容
矢野　裕俊 生きることと学ぶこと	10月７日	私たちは「子ども」、「大人」という言葉をほとんど疑問をもつことなく日常的によく使っている。しかし、厳密に考えてみると、自明のことのようでありながら、「子ども」も「大人」も定義しにくい言葉である。授業では、ライフサイクルについての有力な説明を紹介し、それと受講生のみなさんの個人史とを重ね合わせながら、自分の位置をとらえることを試み、同時にライフサイクル概念の効用と限界について考えてみる。授業では、受講生に質問を投げかけ、それに記述形式で答えてもらう。参考文献：レビンソン『ライフサイクルの心理学』、講談社学術文庫
	10月21日	まず、前回の授業で受講生から提供してもらったデータを整理して紹介し、大人になることがむずかしいとされる現代社会において人はどのようにして「大人」になっていくのを考えてみる。その過程では、人はさまざまなライフ・イベントがもつ意味を考えたり、ライフ・チャンスを自分の人生に生かしたりすることになるので、いやおうなく学ぶという活動を行う。学校のような組織的な学習だけでなく、生活場面でのインフォーマルな学びが必要となるゆえんである。授業では、生涯学習をめぐる議論をも紹介しながら、学ぶという営みを、自分に即して、また生活の文脈において多面的にとらえることをめざす。
	10月28日	生きるために学ぶとか、学ぶことによって生きる力を身に付けるというのは、言うのは簡単である。しかし、そのために実際にどうすればよいのかが分からず、私たちは頭を悩ませている。授業では、受講生にある学校の教育の実際とその考え方を紹介するビデオを視聴してもらい、ディスカッションを交え、教室での相互交流を通して、生きることと学ぶことの関係についての理解を深める。
清水　豊子 人生における悩みと迷い ── ハムレットを通した自己理解と他者理解	11月11日	**人生における悩みと迷い ── ハムレットを通した自己理解と他者理解（1）** 悩む青年像といえば、ハムレットを思い浮かべる。ハムレットの悩みが生じた状況を明らかにした上で、受講生は「自分ならどうするか」を考え、自分なりのハムレット・ストーリーを創り始める。原作は知らなくてもいいが、関心があれば、シェイクスピア作『ハムレット』（岩波・新潮・角川文庫など）をあらかじめ読んで授業に積極的に参加することも歓迎。
	11月18日	**人生における悩みと迷い ── ハムレットを通した自己理解と他者理解（2）** 受講生間のトークを通して、各自のハムレット・ストーリーを発展させる。古代、近代、現代の人々の悩みとも対比してみたい。３回の授業では、ソフォクレス作『オイディプス王』、シェイクスピア作『マクベス』・『オセロ』・『リア王』、イプセン作『人形の家』にも触れる予定。
	12月２日	**人生における悩みと迷い ── ハムレットを通した自己理解と他者理解（3）** 各自のハムレット・ストーリーはどういう結末を迎えるか。受講生が創作した現代版ハムレットのいくつかを、トーク仲間とだけでなく、クラス全体で共有したい。このハムレット体験のあとならば、シェイクスピアが描いたハムレット像も自己とは違う他者としてよく理解できるにちがいない。

大山　泰宏 現代を生きる 自己と他者	12月 9 日	**モダンの終焉？** 現代では、近代（モダン）の社会が終焉した（あるいは、しつつある）とする考え方があるが、この言説の妥当性と意義について考察する。そもそも、近代とはどんな特徴があったのか。また、何をもってそれは終焉したと言えるのか。私たちの生活の中に、その終焉は見つけ出せるのか。
	12月16日	**現代における自己と心理** 社会から人間の心の在り方に目を転じて、現代における「自己」という概念について考察する。「自己」は歴史的にどう変化してきたのだろうか。それとともに、人間観や教育はどのように変化してきたのか。
	1 月13日	**現代におけるライフサイクルと教育** 現代の社会のありようを受け止めるのであれば、教育とはどのように変革されるべきであろうか。グループディスカッションも交えつつ、近代の教育を批判的に検討することで、現代における教育の在り方を模索する。
大山　泰宏	1 月20日	授業の最終的まとめ。評価に関して。

1．3　2002年度 年間授業一覧

前　期

授業日		授　業　内　容	メディア	授業形態
大山	4月15日	**オリエンテーション**	ガイダンス資料プリント、受講希望レポート、黒板	講義、授業者－受講生の応答
田中毎実	4月22日	**ライフサイクルの基本構造** 「ライフサイクルと教育」における相互行為の問題を扱いながら、この授業における相互行為の前提を築く。	受講希望レポート抜粋、資料プリント、黒板	講義
	5月13日	**大学授業における相互行為** 前回に引き続き、この授業における相互行為の前提を築く。	何でも帳抜粋、資料プリント、黒板	講義
	5月20日	**青年期・中年期・老年期とライフサイクル** 青年期、中年期、老年期の問題について考える。	何でも帳抜粋、資料プリント、授業評価表抜粋、黒板	講義
	5月27日	**ライフサイクルと教育** 受講生全員の何でも帳を読むことによって、受講生に自分の位置（相互行為のあり方）をマッピングさせる。	何でも帳抜粋、黒板	講義、授業者－受講生の応答
松下佳代	6月3日	**学力低下論 ── 京大生はこう考えるⅠ** 実際に学力テストの被験者になったうえで、「学力低下論」について各自考える。	学力テスト問題、資料プリント、課題帳、黒板	講義、個人作業
	6月10日	**学力低下論 ── 京大生はこう考えるⅡ** 「学力低下論」についてグループで話し合い、グループとしての意見をまとめる。	課題帳抜粋、資料プリント、ディスカッションシート、グループ編成表、黒板	講義、グループ・ディスカッション
	6月17日	**学力低下論 ── 京大生はこう考えるⅢ** 各グループの意見を聞いたうえで、あらためて「学力低下論」について各自考える。	ディスカッションシート抜粋、各班のディスカッションのまとめ、資料プリント、グループ編成表、黒板	講義、授業者－受講生の応答、個人作業、グループ・ディスカッション
	6月24日	**学力低下論 ── 京大生はこう考えるⅣ** 学習・学力の再定義を行うことで、受験勉強・受験学力を相対化させ、「自分が自分に与える教育」を提起する。	ディスカッションシート抜粋、資料プリント、黒板	講義

井下　理	7月1日	**欲求と自己Ⅰ** 欲求分析ドリルを体験したうえで、「人間の行動と欲求」について考える。	欲求分析ドリルシート、ＯＨＰ、パワーポイント	講義、個人作業
	7月8日	**欲求と自己Ⅱ** ＶＴＲを視聴したのち、「人間の欲求と役割の葛藤」について、グループで話し合う。	ディスカッション感想コメントシート、ディスカッション資料プリント、新聞記事のコピー、座席シート、ＯＨＰ、ＶＴＲ	講義、グループ・ディスカッション
	7月15日	**欲求と自己Ⅲ** ＶＴＲを視聴したのち、グループで、またクラス全体で、「人間の欲求と役割」について考える。	ディスカッション感想コメントシート、ディスカッション資料プリント、座席シート、ＯＨＰ、ＶＴＲ	講義、グループ・ディスカッション、全体討論

後　期

授業日		授　業　内　容	メディア	講義形態
矢野裕俊	10月７日	**子どもから大人へⅠ** 「大人－子ども」の二分法によって、自分の現在を捉える。	ワークシート、資料プリント、ＯＨＰ	講義、個人作業
	10月21日	**子どもから大人へⅡ** 「大人－子ども」問題についてグループで話し合うことにより、自分の考えを相対化する。	ワークシート抜粋、学生持参の新聞記事のコピー、何でも帳抜粋、ディスカッション資料プリント、ＯＨＰ	講義、授業者－受講生の応答、グループ・ディスカッション、グループ発表
	10月28日	**大人になることとポスト青年期** パラサイト・シングル論を手がかりに「大人になること」について考える。	何でも帳抜粋、資料プリント、ＯＨＰ	講義、グループ・ディスカッション、グループ発表
清水豊子	11月11日	**人生における悩みと迷いⅠ** 『ハムレット』理解のために必要な基盤を築く。	資料プリント、ワークシート、黒板、ホワイトボード	講義、個人作業、グループ・トーク
	11月18日	**人生における悩みと迷いⅡ** 前回の何でも帳・ワークシートの記述を使って、作品理解の基盤を再構築し、さらにグループ・トークによって作品理解を深める。	何でも帳抜粋、ワークシート、資料プリント、黒板、ホワイトボード	講義、個人作業、グループ・トーク
	12月２日	**人生における悩みと迷いⅢ** 作品理解や他者としてのハムレット理解を深める。	何でも帳抜粋、ワークシート、資料プリント、黒板、ホワイトボード	講義、個人作業、グループ・トーク
大山泰宏	12月９日	**近代教育再考** 歴史的・社会文化史的な観点から、近代教育を批判的に検討する。	資料プリント、黒板、パワーポイント	講義、グループ・ディスカッション
	12月16日	**現代社会におけるメディアとコミュニケーションⅠ** 「コミュニケーション」「メディア」に着目して、現代社会についてグループで話し合う。	何でも帳抜粋、資料プリント、黒板、パワーポイント	講義、グループ・ディスカッション
	１月20日	**現代社会におけるメディアとコミュニケーションⅡ** 現代の特徴を「コミュニケーションの様相」と「メディア」を切り口として分析する。	各班のディスカッションのまとめ、何でも帳抜粋、資料プリント、黒板、パワーポイント	講義

（作成：藤井奈津子）

2　2002年度公開実験授業の参加者数

2．1　単位取得者数

前　期

学 部	教育	経済	工	総合人間	農	文	法	計
人 数	21	1	7	2	7	2	9	49

回 生	1	2	4	計
人 数	38	10	1	49

※履修者数　68名

後　期

学 部	教育	経済	工	農	文	法	計
人 数	14	1	4	7	1	1	28

回 生	1	2	計
人 数	24	4	28

※履修者数　34名

（作成：神崎尚美）

2．2　授業検討会参加者数

表１　各回の参加者数の推移

授 業 日		学内	学外	合計
1	4月15日	9	0	9
2	4月22日	9	4	13
3	5月13日	7	3	10
4	5月20日	8	1	9
5	5月27日	9	2	11
6	6月3日	9	0	9
7	6月10日	9	1	10
8	6月17日	7	1	8
9	6月24日	9	0	9
10	7月1日	8	1	9
11	7月8日	9	3	12
12	7月15日	9	3	12
13	10月7日	9	2	11
14	10月21日	6	2	8
15	10月28日	10	4	14
16	11月11日	8	2	10
17	11月18日	9	3	12
18	12月2日	9	1	10
19	12月9日	8	1	9
20	12月16日	9	0	9
21	1月20日	8	0	8
合計		178	34	212

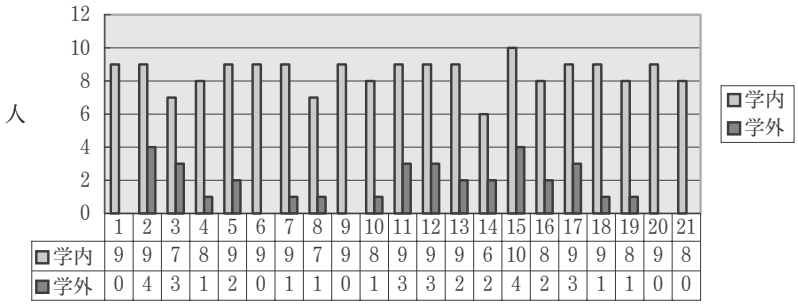
表２　参加者の内訳

	学内	学外	合計
延べ参加者数	178	34	212
参 加 者 数	12	10	22
新規参加者数	5	4	9

田中　井下
松下★　矢野
大山　清水
溝上　吉田
神藤　藤田
藤田　田口
杉原　朝田★
笹村★　下田★
青地★　西垣★
藤井　若泉★
喜多★
鯉迫★

★印は新規参加者

図１　各回の参加者数の推移



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
学内	9	9	7	8	9	9	9	7	9	8	9	9	9	6	10	8	9	9	8	9	8
学外	0	4	3	1	2	0	1	1	0	1	3	3	2	2	4	2	3	1	1	0	0

（作成：藤井奈津子）

3 「授業に関するアンケート調査」結果より

藤 田 志 穂

「授業に関するアンケート調査」は、「ライフサイクルと教育Ｂ」の受講生を対象として、最終回（2003年１月20日）に配布・回収された。回答者数は30名、内28名が「ライフサイクルと教育Ａ」から継続して受講している学生であった。ここでは、当アンケートの結果より、授業全体の印象についての学生の評価と自由記述回答を取り上げる。

１．授業全体の印象

授業全体の印象は10項目について質問され、５段階の評定尺度が用いられた。結果は以下のとおりである。

１．１． 授業は体系的に進められた。

	度数	%
よくあてはまる	3	10
ややあてはまる	18	60
どちらでもない	5	16.7
あまりあてはまらない	4	13.3
全くあてはまらない	0	0
Ｎ＝	30	100

１．２． 授業を通して、新しい発見や驚きがあった。

	度数	%
よくあてはまる	16	53.3
ややあてはまる	13	43.3
どちらでもない	1	3.3
あまりあてはまらない	0	0
全くあてはまらない	0	0
Ｎ＝	30	100

１．３． 新しい知識や技術を獲得することができた。

	度数	%
よくあてはまる	8	27.6
ややあてはまる	13	44.8
どちらでもない	6	20.7
あまりあてはまらない	2	6.9
全くあてはまらない	0	0
Ｎ＝	29	100

1．4．　自分や他人に対する理解が深まった。

	度数	%
よくあてはまる	9	30
ややあてはまる	14	46.7
どちらでもない	6	20
あまりあてはまらない	1	3.3
全くあてはまらない	0	0
N＝	30	100

1．5．　全体的に内容が難しかった。

	度数	%
よくあてはまる	0	0
ややあてはまる	6	20.7
どちらでもない	15	51.7
あまりあてはまらない	8	27.6
全くあてはまらない	0	0
N＝	29	100

1．6．　興味の持てる内容が多かった。

	度数	%
よくあてはまる	7	23.3
ややあてはまる	13	43.3
どちらでもない	9	30
あまりあてはまらない	1	3.3
全くあてはまらない	0	0
N＝	30	100

1．7．　自分たちの意見や要望が、授業の運営に取り入れられていた。

	度数	%
よくあてはまる	8	26.7
ややあてはまる	7	23.3
どちらでもない	12	40
あまりあてはまらない	3	10
全くあてはまらない	0	0
N＝	30	100

1．8．　授業者の熱意が感じられた。

	度数	%
よくあてはまる	13	43.3
ややあてはまる	12	40
どちらでもない	4	13.3
あまりあてはまらない	0	0
全くあてはまらない	1	3.3
N＝	30	100

1．9．　この授業を履修してよかった。

	度数	%
よくあてはまる	15	50
ややあてはまる	12	40
どちらでもない	3	10
あまりあてはまらない	0	0
全くあてはまらない	0	0
N＝	30	100

1．10．　後輩に、この授業の履修をすすめたい。

	度数	%
よくあてはまる	10	33.3
ややあてはまる	12	40
どちらでもない	7	23.3
あまりあてはまらない	0	0
全くあてはまらない	1	3.3
N＝	30	100

2．自由記述

自由記述回答は、当該授業の魅力的な点、および改善すべきと思われることは何かという質問に対して行われた。

2．1．〈リレー〉授業に関する自由記述

同一の授業科目で数回ごとに講師が交替していく、いわゆる「リレー」式授業であるということは、当該授業を特徴づける一要素である。この〈リレー〉授業は受講生にとってどのような意味があったのか ── これは、1月20日（2002年度最終回）の検討会において関心を引いた問であった。この問を受けて〈リレー〉授業に関する自由記述を集めた。

この授業が複数の講師によって担われたことを「魅力」とする回答は次のような内容であった。（斜字体で記した箇所は回答例、［　］内は引用者）

・いろいろな授業・テーマに接することができる。

いろいろな先生の授業を聞けた（リレー講義でよかった）

いろんな種類の授業を受けられる。←リレー方式

3回ごとにテーマが変わる。(知りたいことについてどうすればいいかだけ教えてくれ、あとは自分でやれる)

リレー形式(いろんなテーマ)

教授が多いので様々な分野の話が聞けた。

様々な題材で、角度を変えて物を考えられたこと

・他大学からの講師の授業を受けられる。

SFCの先生の講義がきけたこと。

他大学の先生の話もきけたこと。

また、要改善と指摘する自由記述の中で〈リレー〉式に関するものは以下の通りであった。

・講師一人当たりの授業回数が少ない

一人の先生の持つ回数が少ない

リレー方式の欠点でもあるが、もう少しこれをききたかった、というところで一つの話が終わってしまう。

リレー講義なので教官一人あたりの授業回数が少なく、授業内容を体系的に学び取ることができなかったり、一つのテーマについてこちらがゆっくりと考える余裕がなかったように思える。

全体的には熱心な先生が多く良かったのですが、3〜4回で扱う内容が変わってしまい、自分の考えが中途半端なまま終わってしまう事が多かったのが残念でした。

・テーマの一貫性が低い

もう少し扱うテーマをせばめたりして、一貫性を高めてみるのはどうでしょうか。例えば、「近代と現代」というテーマにして、ある先生は近代と現代を比較し、又ある先生はメディアについて比較したりして、一つのテーマをいろいろな角度から見るようにすれば、いろいろな先生が集まっている環境をより生かせられると思います。

2.2. ディスカッションに関する自由記述

自由記述全体では、ディスカッションへの言及が最も多かった。そのうち、授業の魅力的要素としてディスカッションを挙げているものは次の通りである。

ディスカッションで新しい学びを得ることができた

ディスカッションで色んな人の意見を聞いたり、仲良くなったりできたこと。

ディスカッションで、他学部の人と話をすることができ、普通の授業ではできないことなので貴重な体験ができたと思う。

ディスカッションによって聞くだけでなく自分で考える機会が増えた。

「大人と子供」に関するディスカッション

ディスカッションを経験できたこと

上にもつながるけれど、ディスカッションなどができたこと。

…ディスカッションをしたり、[できるのはこの授業だけで、良かった]。

また、ディスカッションに関して改善すべきとされたのは次の点である。

・ディスカッション所要時間の設定が不適切

ディスカッションの時間を延長してほしい。

ディスカッションの時間調整。時間が余りすぎた時もあれば、足りなくて未消化だった時もあったので…。

ディスカッションの時間が少し短かったと思います。でも、他の授業に比べて、興味のあるテーマが多かったこともあって、積極的に参加できたので、よかったです。

時間内にやるということも大切かもしれないけれど、やはりディスカッションなどやると少し慌ただしかったと思う。もう少し掘り下げてみたいなぁ、と思うこともあったのは事実。

・ディスカッションの論点が曖昧

考え易い、はっきりしたテーマにして下さい。(例えば「学力低下」「ハムレットを通した自己理解」等は、焦点がはっきりしていて、こちらも考え易く、議論に参加しやすかったのですが…）あいまいなテーマ（広く捉えられるテーマ）は抽象的で参加しにくかったです。

ディスカッションの質問のしかた…時々広義すぎたり煮つまりやすい質問がひょいっと出されたりすると、みんな考えに困って何も書けないことがあります。時間が割に少ないので、そこら辺おねがいします。

2．3．　上記以外の自由記述

(1) 魅力的だったもの

・他学部生との交流

他学部の人との会話の機会があった（しかしそれを生かせなかったが…）

他学部の人と話す機会があったこと。

・他の受講生との意見交換

遊び友達とでは難しい、真面目モードでの会話ができたこと。

なんでも帳のえりぬき

何でも帳解説（紹介？）

他の人の何でも帳の内容をプリントで見れる←他の人の考えを知ることができる。

みんなの書いたレポートを読むことができた。みんなの意見が知れることも多く、刺激になった。

他の学生さんの考えを聞いたり読んだりすることで自分の考え方の視野が広がったこと。

他の人が考えていることを垣間見れたこと

・授業者との関係、何でも帳

生徒が教師に突っ込める点。

何かを強制されるという感じがあまりなかった。

生徒をたいせつに思ってくれているところ

何でも帳にその日の授業感想が書けて、担当の教官からコメントがかえってくるところ。

…毎回、先生のコメントをいただけるのはこの授業だけで、良かったです。

何でも帳にコメントがもらえる点。

「何でも帳」に対する細かいコメント。

何でも帳のフィードバック（自分が書いたことに感想が返ってくるのがうれしかった。）

なんでも帳（どんな稚拙な意見にもコメントが返ってくるのが嬉しかった。）

・テーマ

テーマが他の講義に比べて興味のある内容が多かった。

授業テーマの意外性

自分で今後考えてみたい興味深いテーマが示された

自分に必ず関わる題材であった点。

全体を通して「生きる」ということについて考えることができた。

・参加意識をもてる

積極的に授業に参加できる

授業に参加していることを実感できます。

・自分で読む／考える機会を得た

古典に触れることができた

「ハムレット」を読む機会ができた。

子ども・大人について考える機会を得た。

文学作品を通して自己を見つめ直したこと。

なんでも帳を書くことで、自分の考えが少し具体的になったこと
常に自分が考え、その考えを発表する機会を与えられていたこと。

・特定講師の授業に関して
死の五段階の話。
田中先生の語り口調。
松下先生の学力低下
（前期の最後で講義した慶応の教官の方）「クラウンになった青年」
矢野先生の授業
「大人と子ども」について
一回しか参加できなかったが、清水教官の授業。とても良かったし、2回参加できなかったのが、本当に残念だった。
（後期大山教官）「現代社会と教育」
メディアについて。

・規模
少人数
教室の大きさがちょうどよく、OHPが見易かったこと

・道具立て
資料が豊富
スライド（ドキュメント）を見たり、…

・その他
時間どおりはじまる
基本的に授業になれ始めた後期の方が印象が強かった。
（楽友会館の雰囲気）
全部、授業出てれば、単位がとれそう。
高校の授業とも、大学の大教室の授業とも違うタイプの授業がうけられたこと。
柔軟な授業形式。

(2) 改善すべきだと思う点

・アン「ハッピーマンデー」
休日の多い月曜日の開講は避けるべきだと思う。
授業がつぶれたら補講をするべき
（月曜日は休みが多いのが残念でした）
月曜日、ということもあって、授業内容に対して継続して取り組みにくかった気がする。…とは言っても改善しにくい問題だとは思うのですが。

・評価方法が公正でない
正直、前期の成績をみたとき「えっ、なんで」と思いました。今では納得している部分もあるのですが、テストなどのようにはっきり点にならない評価の方法なので、その内容を明白にできればと思います。
成績評価…誠意をもって主体的に参加しても、結局は最初に言っていたこととは違って主観で評価されてしまう。

・教師 ── 学生関係
あまり先生方と相互的だった感はあまりない…。
教官と学生の対話をもっといれてほしかった。学生同士の対話はできても、教官と学生の間の相互理解が必要だと思った。
何でも帳の意見を色々よめておもしろかったけれども先生からも、もっと色々出してもらえたらと思ってい

ました。

・施設・設備

机のスタイルが悪いのではないかと思った。以下のように［U字型］してほしい。もっと積極的に参加できると思う。

場所→皆遅れ気味になるので。

冷暖房設備

マイク設備

・その他

先生によって、何を言いたいのかあるいは、僕たちに何を考えさせたいのか、あいまいな授業がありました。

たまに起きる「教官がしゃべりまくるだけの形式」

田中先生の授業…話が聞きとれないし、最も一方通行的な授業

ここでかくべきことではないかもしれませんが、田中先生の授業は受けていて、正直先生が何を伝えたいのかよくわかりませんでした。

学生にもう少し考えさせる機会があればよりよい

各授業のおもしろさ、つまらなさの差が激しい。（仕方ないことだし、個人的見解であるが）

学部のかたより→仕方ないけれど、やはり、他学部生の意見は、いつもいる同学部生とは違うものを感じるので。

本一冊を授業までに各自読むように、との宿題はちょっとむずかしいと思いました。

とくになし。でも溝上先生の授業がうけたかったです。

資料Ａ

授業に関するフィードバック（５月27日）

この調査は、今日の授業に関するみなさんの感じ方を調査し、次回の改善に活かすためのものです。望ましい答えとか望ましくない答えとかはありません。また、回答の内容は成績にはいっさい関係がありませんので、感じたままを率直に答えてください。

（　　）学部　　氏名（　　）

今日の授業に関して、次の各項はどれくらい当てはまりますか。１～５までの数字のうち、ひとつに○をつけてください。

		当てはまらない	どちらかといえば当てはまらない	どちらともいえない	どちらかといえば当てはまる	当てはまる
1．	授業に積極的に参加できたと思う	1	2	3	4	5
2．	人間や社会、自分自身に関する理解が深まった（深まりそう）	1	2	3	4	5
3．	内容や進め方、教材等に学生の学びを助ける工夫が感じられた。	1	2	3	4	5
4．	学生の意見への尊重や、学生の様子への配慮が感じられた	1	2	3	4	5
5．	授業への集中や理解を妨げる要因があった			ない・あった		
	→「あった」場合　具体的に					
（						）
6．	（授業者が必要に応じて質問を追加します）	1	2	3	4	5